

令和4年9月定例教育委員会議事録

(白石町教育委員会会議規則第16条及び第17条の規定により作成)

- 1 日 時 令和4年9月22日(木) 午前9時
役場3階 大会議室
- 2 出席委員 北村教育長 松尾委員 堤委員 川崎委員 一ノ瀬委員
- 3 事務局職員 出雲学校教育課長 谷崎生涯学習課長 梅木主任指導主事
永石学校教育課長補佐 吉村学校教育課長補佐
喜多指導主事 川畑教育総務係長 今福学校教育係長
本山新しい学校づくり係長 池田新しい学校づくり係長
下平指導主事 山口学校給食係長
- 4 前回議事録の承認
8月定例教育委員会の会議録 【原案どおり承認】
- 5 教育長の報告 別紙資料のとおり
- 6 会議に附した議案
附議第39号 学校施設環境改善交付金事業新白石町学校給食センター
建築工事請負契約について
- 7 動議の提出者 なし
- 8 議事の概要 別紙資料のとおり
- 9 議決事項 附議第39号議決
- 10 その他
 - ・事務局からの報告
 - ・傍聴者 無し

1 開 会 8:58

出雲課長

2 前回議事録の承認 8:58

8月定例教育委員会の会議録を資料により説明

委員全員承認

3 教育長の報告 8:59

(前回以降の主な動向)

資料により数点を内容紹介。

8/28 白石中学校修学旅行（～30日）

9/7 福富中、有明中修学旅行（～9日）

9/16 有明地域3小学校合同ふれあい体験学習（黒髪少年自然の家）

9/18 災害対策本部会議(8:30～)、避難所開設(13:00～)、避難指示(17:00～)

一昨年の2,000名の避難者の状況により、不足時には学校の開放が必要
ということで、福富中学校及び有明中学校の体育館も開設準備。

9/7 町議会9月定例会開会（～15日）

台風11号の影響により1日遅れの開会

(杵西・藤津地域教育長会9/9より)

資料により概要の報告。

- ・令和4年度末 定年退職者名簿
- ・令和5年度佐賀県公立学校教員採用選考試験の結果についてお知らせします
- ・令和5年度佐賀県公立学校教員採用選考試験「秋選考」

(その他)

- ・新聞記事より

「夜間中学県立で設置方針」(佐賀新聞)

「スマホ保有 中学生5割、小学生2割

動画視聴、1割が1日4時間以上」(佐賀新聞)

議会の一般質問でも現在の白石町の子ども達のスマートフォンの所持について質問を受けて調査した結果である。9/17の杵島郡PTA指導者研修会の中で、佐賀ITサポートセンターの講師によりいかにリスクを避け使いこなすかの使い方等について講演いただいた。

- ・令和4年度 校長・教育長 中間面談日程表(案)

- ・今年度の給食甲子園で、福富小学校及び白石中学校が第1次予選を突破。

4 連絡事項 9:17～

(1) 問題行動・不登校月別報告について

喜多指導主事：資料により詳細説明。

不登校は小学校で新規1名、8月のいじめの報告は小学校及び中学校はいずれもなし。

(全委員承諾)

(2) 全国学力・学習状況調査(4月調査)質問紙の結果について

喜多指導主事：資料により詳細説明。

質問紙については、全部で69問あり、その中から全国比較で良い分、悪い分を数点抜き出して説明。

川崎委員：この自己評価と学習結果を関連付けるようなデータのものはあるのか。

喜多指導主事：クロス集計というものがあり、学力との相関というものがある。例えば、スマートフォンを見る時間の長いお子さんが、学力が低く出ているかということと顕著とまでは言えない。相関関係があるというような値までは出ていない。

一ノ瀬委員：現在は、スマートフォンの保有、動画の視聴時間が全国より少ないという結果になっているが、全国ももっと伸びるであろうし、白石町も伸びるであろう。教育長の話に合ったように取り上げる、身近からなくすということは不可能である。何かもっと使い方とかリスクとかそういったものを学校の教育の中にあるいは、家庭教育の中に組込むようにもっと強く推し進めていった方がいいのではと思う。この結果は、これまで増加しているのか。

喜多指導主事：このSNSの問題は今回初めてのため、今後分かってくるのではと思う。一ノ瀬委員おっしゃるように学校の中でも情報教育とか道徳のモラルの中で、SNSの使い方、情報発信の仕方とかを取組んでいる。自身の経験でも授業参観の際に外部から来ていただき、SNSを発信する危険性を保護者も一緒に聞く機会を設けたこともあった。どの学校でもやられている訳ではないと思うため、学校と連携しながら、その辺りの使い方等を伝えていきたい。

一ノ瀬委員：今後の動向をみる必要があると思う。

北村教育長：繰り返しになるが、こういう時こそPTAと学校が連携して、大々

的な町をあげたキャンペーンができればと思う。郡PTAの指導者研修会の話をしたが、その時の参加者のアンケートでは、8割が良かったという結果であった。その中でもPTA活動の見直しの時期ではないかということで、やらせられ感を持った方、不加入の方がたくさん出てきている。理由は、その意義を見出せないということで、現状の課題と問題に対応できていない。まさに教育の専門家と子育ての専門家、学校と家庭がしっかり連携して、子どもの幸せのために何ができるか、それは限られた時間しかない、ということはやるべきことの優先順位が当然決まってくるということで、そういうことをPTAの活動の中に据えていただければと思う。

松尾委員：小学校の質問の相談事の件で、先生からどうにかしないといけないという話はいただいているが、まず原因を究明して早急に解決策を見出して欲しいと思う。特にいじめとかもあるため不登校もあるので、早めに活動していただければと思う。

出雲課長：ありがとうございます。検討していきたいともいます。

堤 委員：感想であるが、一つはスマートフォンの視聴の話があったが、逆にテレビは見っていないわけで、私たちの時代はテレビを見ていた。情報の取り方が変わったのだと思う。今自分が子どもあったら、見えていると思う、何を見ているかは別として社会インフラが大きく変わっている時期が何十年かに訪れる。今はその時期なので、その対策としては色々出てこないといけないとは思いますが、極端に心配しなくていいのではという気は少ししています。自分たちのもう少し上の世代の時はラジオを聞いていたと思う。そこで色々な社会トラブルは起こっていたはずで、そういったことがずっと続いているわけで、あまり悲観的にならず、きちんと新しいことへの対応をしていけばいいのではと思ったことが一つである。それと学力との絡みについては、必ずしも相関関係があるかどうか分からないし、相関関係があったからといって、それが因果関係として、どちらが因で、どちらが果かということは分からないわけです。ただ成績が悪い子がたくさん見ているだけであるなら、そもそも原因ではないわけです。そのため止めさせたからといって、その子の成績が伸びるわけではなく、あまりそこも短絡的には結び付けない方がいいのではという気もしている。アンケートの件で松尾委員が言われた件が極端に低いという点と、全国、県と比較して白石町が10%くらい良いという結果が出ているが、これも逆に言うと街中の子達は付度せず悪い方に書くのを白石の子は、付度して良

い方に回答を書いているのではという気がしているのが少し心配であるということと、それに加えて相談はし辛いというところは正直に書いているという、その辺りで大人に対する遠慮というものが、街中の子達よりはあるのではと少し気になった。

(全委員承諾)

(3) 小学校再編について

本山係長：資料により詳細説明。

小学校再編スケジュールについて、小学校再編方針の公表、小学校再編計画（案）の作成、住民説明会、パブリックコメントの実施等の時期等について説明。

教育委員：作成資料の記載内容等の確認、加除修正及び意見。

(全委員承諾)

松尾委員：福富小学校が早くても令和20年までとなり、校舎がもちますか。

堤 委員：必要な教室数はどうにかなるのでは。

松尾委員：校舎が古いためそこまで持つのかという不安がある。

本山係長：校舎については、やはり改修は必要と考えている。

松尾委員：大規模改修について。

本山係長：確かにあと10年、10数年というところで、どこまで改修を行うかというところは課題になってきます。当然お金の問題もありますので、そこは今後の事業等考えて工夫をしていかないといけないと思っております。今、色々な比較もしております。例えば最初から1校で作れば大きな施設が必要となる。しかし、白石4小学校の規模で作れば小さくてすむし、そういったところを考えればある程度は福富小学校の改修費に充ててもトータル的にはそこまで変わらないのではないかとこのところもある。福富小学校は改修をすれば、あと10年、10数年は可能です。どこまで手を加えるかというところは、財政の方とも協議しながら進めていかなければならないと思います。

北村教育長：今の松尾委員からの質問については、もう少し具体的に明らかにしないといけない。北校舎は危ないと思っているが、南校舎は古いが建物自体はがっちり作ってあるため問題ないのではと個人的には思っている。耐震も対応している。

永石課長補佐：どちらの校舎も鉄筋コンクリート造りであり、もちろん支持杭も打たれての校舎となっている。教育長が言われるような基本的ながた

いの体力は十分あると思いますので、本来の外壁、また躯体自体のクラック（割れ目）その辺りが大きくなければ、特段大きく費用がかかるものではないのかなあとと思いますが、実際調査をかけてみないとどのくらい傷んでいるのかははっきり分からないかなあと考えています。

松尾委員：南校舎だけでまかなえますか。

北村教育長：南校舎だけでは難しいのでは。

本山係長：南校舎だけでは厳しいです。例えば、これはあくまで一つの案ですが北校舎の方は取り壊しをして、新たに今後学校以外での利用の可能性も踏まえてそこまで豪華ではない校舎を作る。

北村教育長：給食室あたりが不要になってくるため、中庭のスペースが結構確保できる。昨年児童玄関から1階及び階段途中まで内装の塗り直しを行ったが結構きれいにはなった。非常にその辺りがみすぼらしかったため、必要以上に劣化が進んでいるような印象を受けていたが塗り直しによりきれいになった。

堤 委員：校舎については、例えば鳥栖の弥生が丘、とかがそうだと思うが、最大1,000人くらいだったのが、現在600人くらいまで数が落ち着いてきて、元々が後から転用できるような設計にしているとかというような話を聞いたことがある。福富地域もそれなりに避難所とかの施設もどこか必要であれば、平屋建てで簡易的ではないが、がっちりした鉄筋ではなく、そういうのを作るのであれば早めの方がいいのかもしれない。残り数年で統一するとかいう時期に造るのではなく。

松尾委員：するのであればすぐの方が良い。

堤 委員：その方が良いと思う改修にしても。

出雲課長：その辺もお示しをしながら、恐らく色々とお尋ねがあると思いますので準備します。

松尾委員：福富の人間は、「もう3校になるんでしょ。」と結構普通に言っているみたいです。

堤 委員：3校になるという話がもう出ているということですか。

松尾委員：普通に話しているみたいです。

北村教育長：少子化の激減で1校でしょうという話はよく耳にするが。

松尾委員：まだ決まっていないという話はしている。

堤 委員：少し気になっているのは、先日（8月）塩田で教育委員の集まりがあって、現在塩田は、嬉野市が庁舎問題で結構政治問題化している。今、塩田中に立て看板が立てられて、リバティの前にも大きなものが立て

られていたが、福富だけでなくすという（案）が出た後にそういう運動というのが起こっていない。起こってもおかしくなくて、多久とかは起こった。起こっていないということは、意外に受け入れている方も多いのかなという、2校案を受け入れられているという気も少ししている。お上品なだけかもしれないが、多久では起こった。いま、嬉野では庁舎移転に関しかなり起こっている。それが問題化しないということは、実は2校案というのは意外に受け入れられているのかというところが少し気になったところです。

松尾委員：しかし、意外と3校という話になっているのでは。

川崎委員：あまり白石では聞かない。

堤 委員：もう1点気になったところがある。議会への説明資料の中で「段階的に再編を行う」というのが、答申からすると一つの大きな変更点だと思う。それと「将来的には1校にする」というのは、答申の議論に沿った、要は「適正規模の学校を（つくる）」ということ。適正規模ではないといっても色々な段階があって、一番避けないといけないのは複式学級。学年によって1学級、2学級が混在しているのはまだ許容範囲であるという感じだと思う。同じ適正規模外といっても色々な段階がありますが、一番避けないといけないのが、複式学級と適正規模を超える学校。これらは、避けないといけない。その中間の、例えば単学級で（全学年に）1クラスずつあるとか、あるいは1学級、2学級の学年が混在しているのは、許容の範囲内という感じだと思う。その辺りを鑑みて、（最初から1校が適正規模を超えるのなら）、適正規模の学校とそれに近い所を維持しながら「段階的再編を行って、将来的に（適正規模の）1校」という流れだが、その中で、では段階的にしたときに（すでに適正規模未満になっている）福富小はなぜ今回の再編対象に入らないのか、恐らくそこが1つのキー（ポイント）になっていると思います。そこで、福富小学校を当面再編せずに継続する理由のところ、**「まちづくり」とか「地域コミュニティ」がどうかということに教育委員会側が言及してしまうと、「まちづくりとか地域の何とかがって（最終的に1校になるまでの）10年ぐらいの話でしょ、長期視点に立って無いじゃないか」ということになってしまう。まちづくりとかの長期視点に立てば、例えば「（さらに）小規模化しても残せ」という話になるのではと思う。あまりここ（まちづくりや地域コミュニティ）に言及しない方が良くないですか？単純に段階的にして、おそらく福富小については、先ほど言った複式とかも全然起**

きる気配はないし、1学級、2学級が混在して、そのまま令和20年くらいまで行くだろうから、別に今、取り立てて行う必要はなく、最終的に1つにする時に合わせて（再編を）行えばいいという、そういう理屈付けをしておかないと、ここで「まちづくり」とか「地域コミュニティ」がどうこうと言ってしまうと、「でも結局、（1つになる）令和20年までなんでしょ。」ということで、10数年、15年後に1校という話になった時、「地域コミュニティ、まちづくりを重要視すると言ったんだから、令和20年より先に、1クラス、単学級だけになる、要は6学級になるまでずっと残せ。」みたいなことにならないかなという気がする。それ（まちづくり、地域コミュニティ）を（設置者である）町長が言うなら多分いいと思う。こういう結果を受けてそういう意見を言われるのはいいと思いますが、（再編審議会に諮問した）教育委員会側がそれに言及してしまうのはちょっとおかしくないかという気がします。

北村教育長：今のところは、重要なところですが教育長としては、資料22ページの一番下に記載の1校再編までの期間10年から15年ほどありますが、この期間に1校になってもスムーズな展開ができるような教育の基盤固めをしたいという思いです。そのためには、あまり地域をいじらないで、現行のまま、白石は寄ってしまうが、元々白石地域というのがありますので、地域をいじらないでコミュニティ・スクールを今以上に確固なものにしたい。そういう基盤ができたなら、さっと1校に寄って、通学区域が広がったとしても、例えば青パトの問題とか、地域で子ども達を見守るというのもスムーズに移行できるであろうという思いがあります。

堤 委員：それなら、継続する理由のところに「将来1つになるときにスムーズにいくように基盤固め」を書かないと。

北村教育長：10年、15年で完結ではない基礎固めです。

堤 委員：基礎固めをするということを理由の一番頭のところとかに書いた方がいいのかなあと思う。

北村教育長：ですから、「今回の小学校再編は、枠組みだけをいじるのではなくて、教育全体の質的な向上も狙っている。」と併せて将来1校に変わるために大きく通学区域等変わってもあわてないでいいような教育の基盤固めを進めたいという思いです。

堤 委員：それならば、資料の「◆」の「・」2つあるところの福富小学校を今回残す理由というところにそのことをきちんと書いておかないと伝

わらないかなと思う。

松尾委員：それなら「小学校が近くにあるということは」という文章は、必ず削除すべきでは。

川崎委員：私もここに違和感を持ちました。

堤 委員：みんな分かっているから、あえて言わなくていい。

松尾委員：最終的に1校になった時は、福富はスクールバスの適用になる。

川崎委員：期待を持たせてしまう文章になるので、ここには現状を書いた方が、現状なぜ福富を残せるかというところが大事なのかと思います。

堤 委員：「まちづくり」とか「地域コミュニティ」ということであれば、15年後に令和20年から25年に1つにする時に向かって固めるという意味合いで、今あえてそれを1つにする必要はなく、なおかつ福富については、複式学級とか6学級しかないという時代はまだ先のことからというようなそういう理屈付けの方がいいのではと思います。

出雲課長：継続する理由のところは、もう少し見直して、基盤固め、15年、20年に向かってというところで整理をさせていただきます。

堤 委員：おそらくこの資料を見ていると福富も令和20年で22、3人とか恐らくそのくらいの感じですよ。

出雲課長：出生数が令和4年度推計が99人、これを福富だけ出してみると母子手帳の交付を含めて1年間の出生数がどうも19人になりそうです。

堤 委員：そうすると今の須古小学校くらいなので、現在の須古、有明南くらいで、もう十分困りごとが発生している状況。

出雲課長：これが単年度なのかこのくらいのペースで波打ちながら推移するのか。

堤 委員：おそらく波打ちながら下がっていくはず。

出雲課長：今回極端に落ちている。もう少し増えるのか分からないところではある。ちょっと気になっているところです。年明け3月くらいには社人研の人口推計が出るため、それとうちの見込みとのまた開きが出たらというところも少し気になっている。

堤 委員：須古とか有明南とかでも出たが20名を切ってくると男女バランスの極端な差が生まれる。30人くらいいるとだいたい半々くらいになるが、15とか16とかになると男4人に女12人とかいうことがどうしても発生して、必ずしも均等にならなくて、福富でそれが起こってしまうと結構大変かと思う。

松尾委員：いま子どもを産むとなると20代ちょっとくらいから30代で、うちの子が上の子30歳、下の子26歳で友達があまり福富（地元）にいない。その辺りが子どもを産む世代なので少なくなってくるのではと

思っていた。

一ノ瀬委員：資料22ページ、4、①「1校となるまで段階的に二度の学校再編を行うことになる。」というところの「その都度…検討しては大変であり、1校再編を見据えた工夫が必要。」と書いてあり、大変だから工夫するという表現は、あまりよくないような気がするので、「学校再編を行うから校名、校訓などについては、1校再編を見据えた工夫をしていく。」ということで、大変だから工夫するというのは、大変なのはわかっている、大変ならばするなとなってしまう。

川崎委員：資料23ページ、(2)の「子どもに関わる「いじめ、不登校、虐待、発達障がい等」の問題を真摯に受け止め」という問題なのでしょうけど、もうちょっと子どもの育ちを育む方に言葉を「子どもの育ちの中でこういうこともあるけれどもみんな支えていこう」という風に書いていただいた方が、これを親御さんが見られる文章に持っていかれるのであれば、そこを問題として取られるとすごく子育てがし辛い、「私たちは問題を起こしている。」という風に受け止めてしまう文章になってしまうので、そこは表現を変えていただいた方がいいと思う。

北村教育長：ここについては、広く共有しというような表現がよいのでは。これは私が起こした文言で、自覚しております。ついそういう表現になってしまう。

出雲課長：また後程でも結構ですので、お気づきの点があれば御連絡をいただければと思います。

(全委員承諾)

(4) 10月行事予定表

川畑係長：資料により説明。

出雲課長：次回教育委員会の日程調整。

(全委員承諾)

(5) その他

特になし。

5 附議事項の協議 10:21～

附議第39号

学校施設環境改善交付金事業新白石町学校給食センター建築工事請負契約について

池田係長：資料により詳細説明。

令和6年度の供用開始に向けた給食センターの新築工事で、9月1日に入札を行い、9月5日に仮契約を締結した。本契約を結ぶにあたり議会の承認が必要なため9月9日に追加議案として提出した。契約方法は条件つき一般競争入札で行った。契約の相手方は、原土建・富士建設共同企業体で、本工事の工期は令和4年9月10日から令和5年9月12日までとしている。議会の承認を得たため報告します。

出雲課長：補足で説明しますが、今回のセンター建設にあたっては、3つに分けて発注をするようにしている。今回が建築で建屋の方になり、これに厨房機器等を含んでの事業です。その他2つは、機械設備関係で1本出し空調とかの設備となる。それと最後に電気設備となります。これについても既に入札が終了し、議会の議決案件ということで10月に臨時議会を開いていただく予定となっている。

堤 委員：これと直接関係ないが、9月定例議会の一般質問では給食が目白押しだったと思うが、具体的にはそれは設備的な面での質問であったか、ソフト面での質問であったのか、全体的な概要をお願いしたい。

出雲課長：3名の議員さんから質問があり、センター1本化にしていくうえでまずは、納入組合がそれぞれの地域に3つあり、それをどうしていくのかということで、納入組合と話をし、2,000食対応できるようなスムーズな組合の体制づくりを整えていただきたいと思いますという話をしている。それから、給食費の値上げについては、今回は交付金を活用し行わなかったが、来年度以降どうなるのかというところで、これについても国の動向を注視しながら必要であれば、給食運営委員会というものがありますので、そちらの方に諮問して来年度からの給食の値上げというところを検討していきたいというところで話をしています。それからセンターが民間委託ということ計画しているということで、今の調理員の方の雇用の問題、非常に不安がられているということで、民間になっても引き続きの雇用をお願いしますというようなことで、これについても私たちもこれから民間委託をしていく中で入札の方法をプロポーザルという形で行いたいと思っており、民間業者から提案していただく条件として、今働いていただいている方の雇用の確保をしていただきたいと思いますというところを条件に入れていきたいと考えております。そういったところで雇用の問題であるとか、給食費の問題、納入組合の問題、そういうところがメインだったかと思っております。今回9月議会の概要の資料を準備しておりませんが、

あと教育関係で学校の再編、教育に関するところの質問もあっており
ましたので、次回の教育委員会に上げさせていただきたいと思います。

委員全員承認（附議第39号）

6 閉 会 10:27

出雲課長